

データでみる軽トラ市 (その5)

愛知大学 三遠南信地域連携研究センター長 戸田敏行
地域政策学部教授

出店車の車体利用 (2)

先回は、軽トラ市出店車の車体利用分類をみた。引き続き、車種と販売品目との関係を見ておき、次に車体所有者へのアンケート調査の一部を示したい。なお、アンケートは分類をおこなった出店車を対象として、2019年10月に実施したものである(配布77,回収33)。

○車種と販売品目

表1が、車種と販売品目の関係である。軽トラに特化する販売品目は、魚などの海産物、調理品である。調理品は、キッチンカーなどの改造を伴うものである(ただし、調理機器を軽キャブバンに積み込んだものもある)。次に、軽トラと軽キャブバンの両者に共通するものとして、農産品、加工食品があ

表1 車種と販売品目

販売品目	軽トラ		軽キャブバン		軽乗用車		品目別合計	
	台数 (台)	割合 (%)	台数 (台)	割合 (%)	台数 (台)	割合 (%)	台数 (台)	品目構成比 (%)
農産品(野菜・果物)	8	57	6	43	0	0	14	16
海産物(魚類)	3	100	0	0	0	0	3	3
加工食品	12	39	14	45	5	16	31	34
調理品	10	59	5	29	2	12	17	19
飲料	1	33	2	67	0	0	3	3
手芸・雑貨	2	17	6	50	4	33	12	13
衣類	0	0	2	67	1	33	3	3
花卉	1	25	3	75	0	0	4	4
対人サービス	0	0	1	33	2	67	3	3
車種別合計 (台数、車種構成比)	37	41	39	43	14	16	90	100

げられる。また、軽キャブバンと軽乗用車に多いものとして、手芸・雑貨がある。軽乗用車のみに着目すると、台数は少ないがエステなどの対人サービスがあり、幅広い車種からの軽トラ市参加可能性を示している。先回述べた外空型と車体外空型との関係のみをみていく必要があるが、今回はサンプル数が限られるので、車種別を示すのにとどめる。

○利用満足度

ここからが、アンケート結果である。まず、利用満足度として、軽トラ市に利用する際の車体の大きさ(車体幅、長さ、高さ、収納)についてと、具体的な行動(運搬、会場セッティング、販売)について尋ねている。選択肢は「とても満足」、「満足」、「どちらでもない」、「不満」、「とても不満」である(表2)。

車体の大きさについて、「とても満足」と「満足」の合計をみると、車体幅54%、車体

長さ51%、車体高さ57%、車体収納57%となっており、満足側が6割程度にある。不満側は少なく、軽トラ市における車体の大きさは概ね受容されている。一方、不満側に着目すると、幅、長さ、高さが10%程度であるのに対して、収納が18%と若干高くなっている。

次に、行動についてである。車体の大きさと同様に満足側をみると、運搬のしやすさ67%、会場セッティングのしやすさ57%、販売のしやすさ54%となっており、満足側が6割程度にあることが分かる。特に、運搬の満足度は高い。これを空間利用別に分けると、車体型50%、外空型70%、車体外空型47%であり、販売に外空のみを使用する外空型の満足度が高い。外空型を行動別にみると、運搬76%、セッティング71%、販売62%である。外空型は、車体と外部空間の利用が区分されているために諸行動が取りやすく、満足

表2 車体利用の満足度

台数(%)

		満足度					
		とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満	無回答
車体	車体幅	4(12)	14(42)	12(36)	2(6)	-	1(3)
	車体長さ	3(9)	14(42)	12(36)	3(9)	-	1(3)
	車体高さ	4(12)	15(45)	11(33)	2(6)	-	1(3)
	車体収納	3(9)	16(48)	7(21)	6(18)	-	1(3)
行動	運搬のしやすさ	4(12)	18(55)	8(24)	1(3)	-	2(6)
	セッティングのしやすさ	4(12)	15(45)	9(27)	3(9)	-	2(6)
	販売のしやすさ	2(6)	16(48)	13(39)	-	-	2(6)



図1 軽トラ市会場への計画的な入場風景

度の高さに反映されているものと考えられる。特に、軽トラ市会場は道路を使用するために、利用できる準備時間が限られている。車の入場も計画的に行われており(図1参照)、セッティングが短時間で行われることが重要なポイントとなる。

自由意見の不満項目では、少数であるが高速道路での走行機能があげられている。これは、出店範囲が広域性を持っていることからの意見と言えよう。また、車体拡張時のバックドアの使い勝手を指摘するものもある。

また、外部空間の広さについても尋ねてみた。「とても広い」、「広い」、「どちらでもない」、「狭い」、「とても狭い」の区分であるが、「どちらでもない」が7割程度であり、外部空間使用については、まだアイデアの余地があるように思える。

○車体に欲しい機能

次に、軽トラ市利用の際に、車体に欲しい機能を聞いてみた。最も多くあがったのが、電気に関するもので、「発電機・給電機能(14件、42%)」である。自由意見として、道路側にコンセントが欲しいというものもある。既に、商店からの給電協力などが行われ



図2 焼き台の積み下ろし

ているが、軽トラ市の一般化を考える際に、配電や給水などの機能を道路に備えることが有効となる。

同数で多いものが、「のぼり旗がつけられる機能(14件、42%)」である。これは、軽トラ市ならではの求めと言えるだろう。いずれの出店車も何らかの看板表示をしており、「のぼり旗」は、その代表的なものである。

その他では、「収納式屋根(6件、18%)」、「収納式テント(4件、12%)」と外空型や車体外空型の利用に対応する意見がある。また、「陳列台(6件、18%)」、「荷台スペースを広げる機能(3件、9%)」などの荷台に関するものがある。調理を外空型で行う場合、比較的重量のある焼き台などを積み下ろしすることになり、積み下ろし支援への要望もある(図2参照)。また、軽トラの場合、季節の販売品目変更に対応できる、荷台装備品なども求められている。

先月、今月は軽トラ市における車体利用について述べてみたが、車体と外部空間がより一体性を持つことができればと思う。それが、軽トラ市を可動商店街とする一つの要点に思える。